



3月5日

大宮地本「組合員のみなさんへ」を发出する！

悩みと苦しみの中で日々奮闘する、大宮地本の全組合員のみなさんへ

JR東労組は、18春闘において『格差ベア』の永久根絶を目指してたたかいました。17春闘で確立したストライキ権を含めた「あらゆる戦術」を行使してたたかい抜く事を組織で確認し、職場からたたかいを創り出してきました。しかし、そのたたかいで情勢把握や組織的力量的不足から、結成以来31年で経験したことがない大量の脱退者を生み出してしまいました。職場は疑心暗鬼になり、これまで創り出してきた安全第一で仲間を大切にする職場風土が壊されようとする現状を生み出してしまいました。しかし、このような中で辛く苦しくて日々悩みながらも職場で踏ん張っている仲間がいます。また、涙を流しながら「申し訳ない」「東労組は必要だと思うが、もう限界だ」と言い脱退した多くの人たちがいます。私たちは、このような問題の早急な克服に向け、たたかいに決起します。

大宮地本は、本日緊急執行委員会と緊急全支部代表者会議を招集し、進むべき方向を確認しました。職場で不安や不満を抱えながらも日々奮闘している組合員へ考え方を明らかにし「私にとっての東労組」の再確立に向け、たたかい抜きます。

18春闘は、12月3日の全支部委員長会議で「18春闘に限らず19以降も格差をなくす確認ができなければ、確立しているスト権のもとあらゆる戦術でたたかう」「甘い考えは今日以降捨てて頂きたい」と吉川委員長より提起されスタートしました。この間わずか3か月弱であり、時間がない中でこれだけのたたかいを創るにあたり、丁寧な議論を組合員と十分におこなえず不信感を生み出してしまいました。大変申し訳なく、反省をしています。そこから組合員の信頼回復に向け今日まで取り組んできましたが、現在においても、それは実現していません。職場では「永久根絶はどこに行ってしまったのか」「格差ベアは無くなったと中央闘争委員会情報に出ているが、その根拠が説明できない」「会社の掲示と組合の掲示どっちを信じればよいのか」等の不信感を克服できていません。この現実の克服に向けて、戦術委員長会議（全地本委員長を本部が招集する会議）で「成果とは確認できない」「信用が無くなっている」と発言し、大宮地本をはじめ多くの地本から同様の声が出されました。それ以降、本部指導に基づいて職場で議論してきましたが、現在もその解決には至っていません。それどころか、組合員の不信感は更に拡大し、会議では何人もの役員が苦しさや悔しさから涙を流しながら発言しているのが現状です。JR東労組への求心力は低下の一途をたどっていると言っても過言ではありません。

いまこそ私たちは職場で苦しんでいる組合員の立場に立ち、嘘やごまかしで乗り切るのではなく、組合員の信頼回復に向けて運動を創り出す以外に、JR東労組がJR東労組として存在することはできないと考えています。

そのために、大宮地本は中央本部へ『臨時大会』の早急な開催を求めます。そして新たな執行部を確立し、組合員が結集できる組織の確立を目指します。国鉄改革から31年かけて先輩たちが創りだしてきた「何でも言い合える職場」を再確立し後世へ引き継ぐため、これまでがそうだったように「労使共同宣言」の精神を継承し、組合員の雇用と利益を守り、明るく働き甲斐のある職場を創るために奮闘していきます。

全組合員のみなさん！新たな体制の確立を通じて、組合員のための運動を職場から創り出すために力を貸して下さい。そして、これまで通り仲間を大切にして安全で安心して働ける職場を取り戻すため団結を強化することを訴えます。

 2018年3月5日
 JR東労組大宮地方本部
 第11回執行委員会

職場で読み合わせをしよう！